



東小学校だより

木 洩 れ 陽

令和3年12月1日 No.9

文責 校長 瀨砂一徹

いよいよ年の瀬の慌ただしさを感じる12月になりました。ここ数日は真冬並みの寒気団が南下し、北よりの風も強く、体感気温がぐっと下がってきました。乾燥する季節でもあり、コロナウィルスだけでなく、インフルエンザウィルスにも注意してきたいと思います。

さて、12月は2学期のまとめの時期です。今月半ばには二学年ずつ参観日も計画されています。各学級担任から保護者の皆様に、これまでの学習面や生活面の様子をお伝えする機会です。より多くの皆様にご来校いただきたいと考えております。ご協力をよろしくお願いいたします。

【「音楽のあるシーン」を大切にする】

あるふとした場面で、知らずに歌を口ずさんだり、簡単なメロディを鼻歌にしたりすることはないでしょうか。私達の人生にとって、音楽は深みを与え、なくてはならないもののように感じます。

特に、小学校期の子どもたちにとっては、様々なジャンルの音楽にふれることが大切ではないでしょうか。先日、子どもたちが“マルセリーノの歌”をリコーダーで演奏していました。また別の日は“翼をください”の歌が音楽室から流れてきました。そして、放課後を伝える日々の校内放送では“イエスタデイ”の調べが届けられています。寒さの厳しくなる今の季節ならば、もしかすると“たき火”や“北風小僧の寒太郎”などの歌を口ずさみながら登校している子どもたちがいるかもしれません。

このように子どもたちの生活場面には、クラシック音楽や映画音楽、歌謡曲、海外のポップス、童謡などがあふれていることが分かります。街角で流れる音楽や各種メディアが使っている楽曲等に耳を傾け、子どもたちと音楽の話題に花を咲かせるのも素敵だなと思います。

詩の暗唱を通して その4・・・

12月はこれまで取り組んできた3つの詩の暗唱を確認する月としています。「忘れもの」「手紙」「最初の質問」の暗唱ができた全ての子どもたちに賞状を贈ります。(右は最初の合格者の賞状です)

